

「日本介護福祉士会創立 30 周年に寄せて」

一般社団法人日本慢性期医療協会 会長

橋本康子



公益社団法人 日本介護福祉士協会創立 30 周年、心よりお祝い申し上げます。

この 30 年間に日本は高齢化による要介護者が増加し、これからの 10 年間もさらに増え続けると見込まれています。要介護者の増加とともにケア人材、介護福祉士の必要数が増し、その存在はますます重要となり、全国で活躍する介護福祉士の献身的な仕事は社会にとって不可欠なものとなっています。2024 年度の診療報酬、介護報酬の改定も、介護福祉士の重要性を認識した結果と言えるでしょう。

介護福祉士たちは、高齢化社会や多様化するニーズに対応し、人々の生活を支え、安心して過ごせる環境を作り出すために日々奮闘しています。彼らは、身体的なケアだけでなく、精神的な支援や社会的な結びつきの構築にも力を注いでいて、優れたスキルと温かい心は、患者やその家族にとって心強い支えとなっています。

私たち日本慢性期医療協会は常々、「今こそ寝たきりゼロ作戦を」と提唱しています。寝たきり高齢者を作らないためには介護の力が最も重要です。医療と看護、介護、リハスタッフなど多職種が目的を一致させて成果を出すことが大切です。これからも日本介護福祉士会と日本慢性期医療協会が協力して世界に類の見ない超高齢化時代を持続可能な幸福・安全なシステムに転換していければと希望します。

この節目の日に、介護福祉士の皆様に心からの感謝と敬意を捧げます。30 年の歴史を誇りに思い、これからも介護福祉の更なる発展と向上に貢献していくことを期待しています。